

<公開授業②の視点>

「基礎基本の徹底から表現活動へ～ニュー・スタンダード・ルーティーン～」(3年生)

授業者 肥沼 則明

1. 本授業のねらい

授業はある程度の中・長期的スパンの中で行われるものなので、本時のみのねらいを明確にすることは簡単ではないが、あえて言えば以下のとおりである。

→授業全体をとおしてコミュニケーションしようとする態度を育成するとともに、「話すこと」「聞くこと」を中心としつつ4技能の力を総合的に伸ばす。

また、これは授業者の公開授業に対するこだわりであるが、派手な「打ち上げ花火」をご覧いただくのではなく、日々の地道な活動をそのままご覧いただくことで、誰でも実行可能な指導のネタを提供することに主眼を置いた公開授業をこれまで行ってきたつもりである。

そこで、今回は以下の2点を公開授業の重点とすることにした。

- ① 「導入→展開→整理」という流れに「帯活動」を加えたスタンダードな指導例を示す。
- ② 文法導入や口頭練習の教材はできるだけ既習のものや教科書にあるものを使う。

2. 本授業の構成

本時の授業には、次の5つの大きなパート(ポイント)がある。

- ① 既習事項を総合的に使った「聞くこと」「話すこと」のコミュニケーション活動
- ② 身近な題材や既習事項を利用して帰納的(時に演繹的)に理解させる新文型の導入
- ③ 「聞くこと」「話すこと」と「読むこと」を併用した教科書本文の導入
- ④ 教科書を使って正しい音・リズム・場面に応じた抑揚などを身につける表現音読
- ⑤ 学習した内容を生徒の表現や発言を拾いながらまとめていく帰納的整理

①は、「既習事項を使ってペアで話し、その内容・表現を検討する」というペア活動であり、毎授業の中で帯活動として行うことで、活動のくり返しによる運用力向上をねらったものである。また、「振り返り」の活動を入れることで、自ら学ぶ「深い学び」になることもねらう。

②は、オーラル・イントロダクションによる新文型の導入で、既習事項を使って生徒とやりとりをしながら目標とする文の意味と表現の理解を目指したものである。そして、今回は過去に扱った場面や教材を使うことで、できるだけ手間をかけないようにしてみた。

③は、オーラル・イントロダクション及びリスニングとリーディングの併用で本文の内容を理解させることをねらった指導である。今回は本文の一部を新文型の練習を兼ねてオーラルで導入し、残りは教科書CDを聞いたり本文を読んだりして確認していく方法を採用することにした。

④は、個々の音、リズム、場面に応じた抑揚の付け方などを継続的に指導する中で、伝えようとする気持ちを自然に表現できるようにさせることをねらった指導である。ほぼ毎回復習と新教材の両方で多くの時間を割いて音読をさせている(後期は復習音読なし)。

⑤は、そこまで教えたことが理解できているかを確認するために、生徒とやりとりをしながらまとめていくことにこだわった文法のまとめの時間である。また、「書くこと」によって、「聞くこと」「話すこと」の活動では理解しきれなかった点を補足する機会でもある。

3. その他

本授業の生徒は、3年生になって初めて教えている生徒である。3年生の中では最も幼く、積極的な発言もあまり多くないが、生徒間の人間関係が比較的安定していて、教師と一緒に授業を楽しもうという雰囲気もある。そうした特性を上手く活かして、生徒がしっかり活動する授業を行うようにしたい。なお、資料は本時で使うもののほか、関連のものも準備した。

【お詫び】

一昨年は病気により直前に公開授業を降板し、昨年はその再発による長期の病休で本会も欠席させていただきました。ご迷惑をおかけし、本当に申し訳ございませんでした。